
夢の続き 後悔は先には立たない

シエング

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の続き 後悔は先には立たない

【Nコード】

N6551G

【作者名】

シエング

【あらすじ】

近頃よく夢を見る。ただの夢なんかじゃない。それは、高校の頃の記憶 夢ではない。過去の記憶への邂逅なのだろうか。振り返りたくても、もう振り向くことさえできないくらいに時が過ぎるのは早い。高校時代に、大きな分岐点があった。多分人生の分岐点だっただろう。もし、この道を進んでいたらどうなっていたか。それは誰にもわからない。だけど、もし……そのもしは叶うことは永遠にはないんだけれど、想像だけでもしてみようか。君は、『もし』という言葉は好きかな。『もし』よろしければ、私の過去の記

憶に付き合ってくれないだろうか。そう　私は一介の……普通の
高校生だった

プロローグ

近頃よく夢を見る。ただの夢なんかじゃない。それは、高校の頃の記憶

夢ではない。過去の記憶への邂逅なのだろうか。振り返りたくても、もう振り向くことさえできないくらいに時が過ぎるのは早い。高校時代に、大きな分岐点があった。多分人生の分岐点だっただろう。もし、この道を進んでいたらどうなっていたか。それは誰にもわからない。だけど、もし……そのもしは叶うことは永遠にはないんだけれど、想像だけでもしてみようか。

君は、『もし』という言葉は好きかな。『もし』よろしければ、私の過去の記憶に付き合ってくれないだろうか。

そう　私は一介の……普通の高校生だった

プロローグ（後書き）

不定期にUPしていく、日記のような小説なのでそこは悪しからず、ご了承くださいませ。

入学式

入学式 小学、中学と同じような通過儀礼のだが、迫力が違った。熱い。すごく熱い。それは、熱気を感じることが出来る場所だった。

中学のような遊びの部活とは違う。一生懸命になって、全国を目指す部活動が多かったからだ。

私は中学時代バスケット部に所属していて、バスケットが好きなので、いや、大好きな人だった。だからこそ、高校でもやろうとしていた。何よりもびびったことが、私よりも大柄の人が多いということだけだった。私の身長は171cm。それでも中学の時には背の高い人が良くやる、PFやCだったパワーフォワードセクター

私のクラスは1年3組。周りを見ると、坊主の野郎がちらほらと。各言う私も坊主なのだが。自己紹介などめんどくさく、手短に目立たない程度にあっさり済ませた。

「私の名前は中林明なかばやしあきらです。バスケット部に入ろうとしています。よろしく願います」

ただ、これだけの短い自己紹介。何よりも部活というものが見たくて、ドキドキしていた。部活紹介は3日後なのだが、それまでは待てなかった。

少し太った担任に これでも柔道部顧問だという 体育館を聞いてこっそりと見に行った。

上級生には不思議そうに見られたが、階段を駆け抜けて体育館の中をこっそりと覗いてみた。

私は呆気にとられた。予想はしていたのだが、サイズが違う、パス精度が違う、シュートの正確さが段違いだった。手から放たれるシュートはことごとくネットを潜り抜けていった。これが、高校の現状なのか……と感じざるを得なかった。

この時はまだまだ入学したての何も知らないころだった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6551g/>

夢の続き 後悔は先には立たない

2010年10月11日04時53分発行